

2019
第2回

高校生 未来 サミット

未来サミットへ 参加した感想

★ 平野 いおさん

今回の取り組みで一番心に残ったのはKさんの話です。これまで新聞やテレビで原発事故の避難者の方の話を読んだり聞いたりすることはたくさんありましたし、いじめや悪口があることも知っていました。でもそれには今回Kさんから直接聞いた時ほどの衝撃はありませんでした。もうすぐ家を取り壊すと言っていたKさんはとても悲しそうでした。私たちに聞かせてくれた話はきっとほんの一部で、Kさんも、それから他の多くの人たちも、私には想像できないくらい辛い経験をしてきて、きっと今もたくさんの人が苦しんでいるんだろうと思いました。こういう人たちが安心して相談できて、少しでも心が軽くなるような制度がしっかり整っていくべきだと思い、どうすればいいか考えたいと思いました。

★ 半澤 はるのさん

夜遅くまで同じグループの人と話し合い、いろんな意見を交換できることができが心に残りました。学校の友達と話さないような話もできて良かった。ディスカッションなどを通して自分の意見を伝えられたり、同じ考え方を持っている人の話を聞けたのが嬉しかったです。学年の違うメンバーと積極的に意見交換ができ、海外経験の話を聞いて、新しいことをたくさん吸収することができました。上下関係なく自分の思いを伝えられる環境が良かったと思います。友達の震災の体験談を初めて聞いて、同じ福島でも場所によって状況が全然違っていたことに衝撃を受けました。私はほとんど被害を受けずに済んだということもあり、悲かったです。大阪の高校生と関わる機会を持つことができて良かったです。

決してそんなことはない
曇りのないまなざしは正しい未来を
導き出せるかもしれない
大人たちに伝えてみないか
未来を背負う君たちのために
ここに、高校生未来サミットの
開会を宣言する

未来を担う君たちは
未来を決めることが出来ない
大人たちが決めたことが
正しくても間違っていても
背負うのは君たちなのに
君たちは大人より劣るのだろうか

飯館電力の近藤さんと営農型発電所の下で撮影。
このパネルの下をトラクターで作業して牧草を収穫します

福島と大阪の高校生が 福島で学び、考え、伝える

福島県の現状を学ぶ

9月22、23日の1泊2日で、大阪の高校生と福島の高校生が福島県の震災以降の現状や課題を見学し、考え、伝える「第二回高校生未来サミット」が開催されました。

相馬市の野馬土では、玄米の全量全袋検査と野菜や果物の放射性物質を測定する現場を見学。原発事故8年が過ぎても実施される検査の必要性を学びました。飯館村では、農地に太陽光パネルを高く設置し、農地では牧草を栽培する営農型太陽光発電を設立した。飯館電力では、農地に太陽光パネルを高く設置し、農地では牧草を栽培する営農型太陽光発電を見学し、考え、伝える

所に数多く取り組んでいます。一度は全村避難を強いられた村で、農業とエネルギー生産で地域を再興する取り組みは日本全国の農村のモデルになるものでした。

4人の講師と 考え、伝える

グループワークでは、建築、エネルギー、農業、自然環境の4班に分かれて講師の話から、福島の現状を学びました。そして自分たちなら日本、福島の課題に対してもどんな未来を描くかをディスカッションし、意見を交換しました。農家民宿に分かれてからも遅くまで話し合いが続きました。

翌日の各班からの提言は、どの班も自分が求める未来を真剣に議論した内容ばかりですばらしいものでした。社会の課題を考え、仲間と一緒に解決に挑む姿は、頼もしものでした。この未来サミットと同時に世界中で開催された、気候変動問題解決のために立ち上がった若者と同様、未来を担う若者をさらに応援したい。



農民連フラッシュ flash

生業訴訟～私たちの被害を語る～

9月27日仙台控訴審第7回期日が行われ、今回6名の原告が裁判所で被害を訴えました。内2名は農民連会員です。入廷前の集会では、原告はじめ支援者など気迫のこもった訴えて6名の原告を笑顔で送りだしました。



NOTE 青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介 / 若い農業者のつぶやき の一と せいねんぶ農人

福島市にある農産物直売所『産直カフエ』。新米、ぶどう、梨、りんご、秋冬野菜など商品を通して季節の移ろいを感じ、ものとの交流の場として地域の皆さんや生産者に必要とされるお店をめざしてスタッフ奮闘中。 by藤田



太陽光発電用地募集

太陽光発電用地をお貸しいただける方を募集しています。

- ① 約1000~2000m²の遊休地
- ② 日当たりがよい
- ③ 宅地、雑種地、林地、原野などの地目の土地
- ④ 賃貸条件:100円/坪(年)

ご連絡いただければ、現地を確認させていただきます。

【連絡先】福島農民連産直農業協同組合 担当:佐々木健洋
Tel 024-546-7229 fax 024-546-8804
メールアドレス:stake@vmail.plala.or.jp

